

GKP 北海道 令和2年度 ウェブセミナー 報告書

新型コロナウイルスの下水疫学 ～下水道インフラの新たな付加価値～

主催：GKP 北海道

日時：令和3年2月17日（水）15:00～16:30

場所：ウェブセミナー

GKP 北海道は、令和3年2月17日（水）令和2年度ウェブセミナーを開催いたしました。今年度は、新型コロナウイルスの影響により、下水道の日に因んで行うチカホイベントや地方ツアーなどが軒並み中止となり、会員のモチベーションを保持するのが困難な一年ではありましたが、年度の最後に会員に対して、下水道の旬な話題や研究・取り組みなどについての知見を深める機会を持たせたことはとても良かったと思います。

ウェブセミナー形式は初の試みであり、ネットワークトラフィック負荷の影響が未知であるため、聴講者を GKP 北海道会員に限定して募集した結果、37名が参加しました。

講演：新型コロナウイルスの下水疫学 ～下水道インフラの新たな付加価値～

講演者：北海道大学大学院工学研究院環境工学部門 北島 正章 助教

今回のセミナーのテーマは、タイムリーで身近な話題であり、また研究内容が最先端のものであったため、事後のアンケートでも会員にはとても好評でした。また数多くの質問に対して、北島先生にはたいへん丁寧にご回答いただき、とても有意義なウェブセミナーになったと思います。

講演者の北島先生は、海外の研究者と共同で下水中の新型コロナウイルスに関する世界初の総説論文を発表され、

さらに、国際共同研究グループの一員としてオーストラリア・ブリスベン市や、米国ルイジアナ州などの下水試料から新型コロナウイルスの RNA を検出、国内では山梨大学との共同研究で、新型コロナウイルス RNA の検出を報告する国内初の論文を発表されています。

ウェブセミナーでは、北島先生の研究のはじまりから最新の成果まで下水疫学¹⁾について幅広くご説明いただきました。下水中のウイルス検出により感染流行の実態を把握することができ、今後、下水処理場の社会インフラとしての価値が高まっていくことが期待されます。

セミナーの最後には、ネットワークトラフィックの負荷テストを兼ねて聴講者全員のビデオカメラをオンにして記念撮影を行い、そして、講演者に対して拍手を送りセミナーを締めました。



講演者：北海道大学 北島助教

1)下水疫学

大腸菌よりもさらに小さいウイルスの濃度を PCR 法（核酸増幅法）で定量評価し、感染症が蔓延する前に、流行の兆候を把握しようという新興分野

集合写真



以上